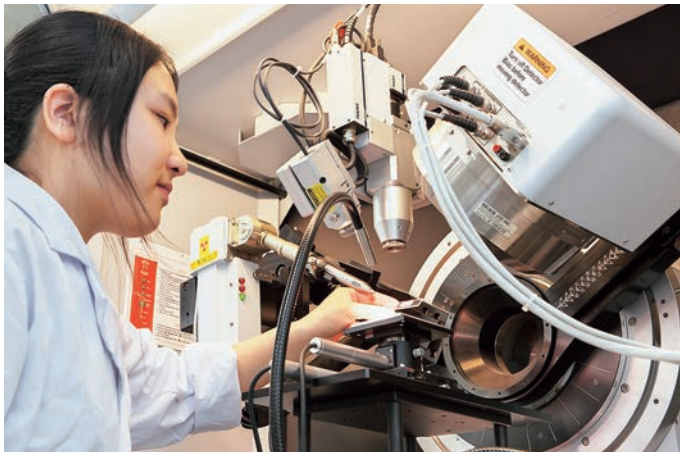
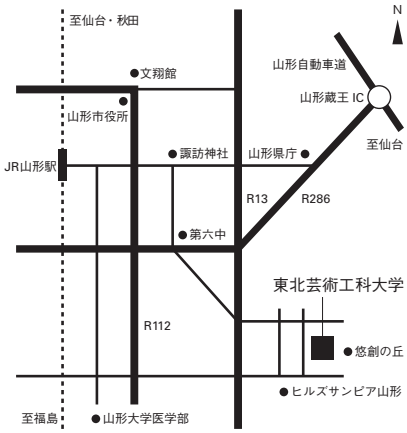


東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター

東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターは全国初の大学附属文化財保存修復研究センターとして、2001年4月に設立されました。地域の文化財を守り、伝える研究機関として、教育や研究にも多方面から取り組んでいます。

2001　東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター設立
2005　文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業「地域文化遺産の循環型保存・活用システムに関する総合的研究」採択（2010年3月まで）
2010　文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「複合的保存修復活動による地域文化遺産の保存と地域文化力の向上システムの研究」採択（2015年3月まで）
2015　「寒冷地域における文化財の保存修復に関する研究」（2019年3月まで）
2019　「文化遺産の保存・活用に関する研究」

建物名称：文化財保存修復研究センター／建築規模：763.38㎡／延床面積：2,343.21㎡
最高高さ：18.95m／軒高さ：13.415m



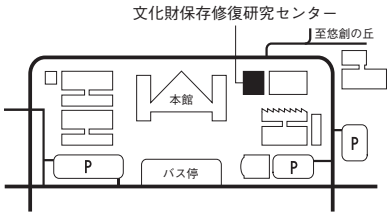
令和４年度版

●修復のお問い合わせはこちら

東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター

〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5　TEL 023-627-2204　FAX 023-627-2303

E-mail iccp@aga.tuad.ac.jp　URL http://www.iccp.jp



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

東北芸術工科大学
文化財保存修復研究センター

Tohoku University of Art and Design　Institute for Conservation of Cultural Property

文化財を守り、次世代へつなぐ。

物語を紡いでいく

仏像などの古典彫刻には、制作された当初の記憶とともに
手から手へ大切に守り受け継がれ歩んできた
歴史の“物語”も内包されています。
われわれは、修復を通じて、
その“物語”を次の世代へ紡いでいきます。

「五百羅漢像」龍澤山善寶寺（山形県鶴岡市）

X 線写真

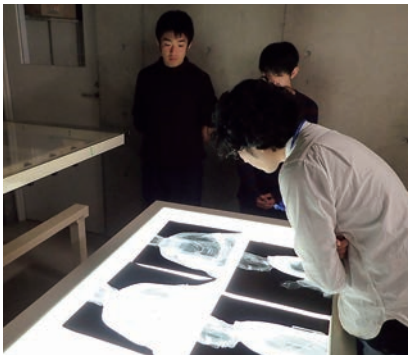
BEFORE

AFTER

「大日如来像」八海山法音寺（山形県米沢市）

郷土で受け継がれた文化財

彫刻・立体作品は経年変化や損傷が一様ではなく、修復には複合的な知識と技術が必要になります。対象の情報を、目視による観察・赤外線などを使用した光学調査・保存科学部門と連携する機器を使用した科学的分析を通して、構造や材料を知り、理解し、考察を重ね、修復方法を決定していきます。



「雲龍欄間彫刻」大日如来堂（山形県白鷹町）

「一搭両尊像」鳳凰山要行寺（千葉県大網白里市）

立体作品修復部門
古典彫刻修復部門

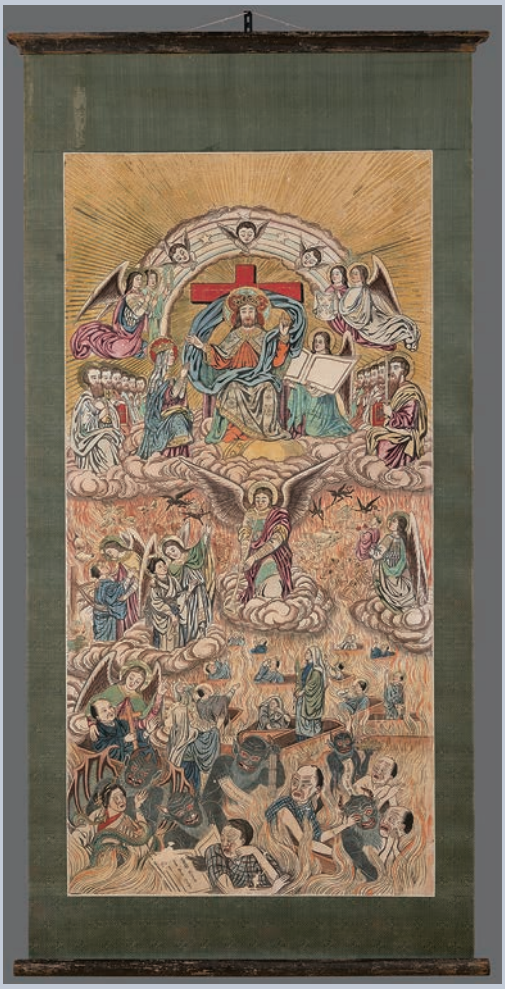
美術館・博物館に保管されている現代美術や彫刻から郷土に受け継がれている様々な文化遺産まで広く取り扱います。特に古典彫刻修復では鶴岡市・善寶寺をはじめ、各地の社寺へ調査修復を実施しています。

●担当研究員：柿田喜則（研究員・教授）／笹岡直美（研究員・准教授）／門田真実（常勤嘱託研究員）
藤原徹（客員研究員）／山田修（客員研究員）／宮本昌朗（客員研究員）

伝統の継承と進化する東洋絵画の修復

「最後の審判」
大浦天主堂キリシタン博物館蔵（長崎県長崎市）

BEFORE



AFTER

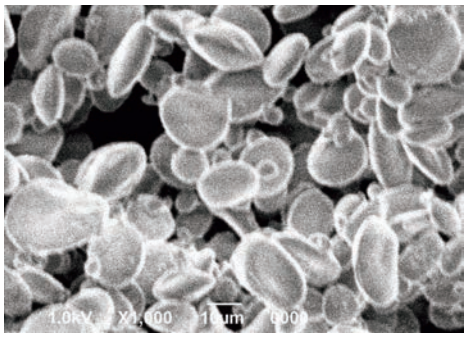
BEFORE

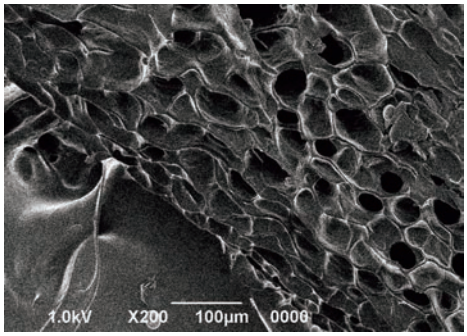
AFTER

掛軸や屏風、絵馬や襖といった形態を仕立てる技術は表具（ひょうぐ）や装潢（そうこう）と言われ、この技術により日本の絵画作品は何度も修復をされながら受け継がれてきました。長い間に作品は傷みます。波打ち、横折れが進み、本紙が切れてしまった掛軸。経年の劣化から本紙が裏打ち紙から浮き上がり、しわが入ってしまった作品など、あまりにも傷んだ作品は一度解体して、もう一度掛けることができるよう修復して作品を受け継ぐ手助けをします。

紙を知り、糊を知り、作品を守る

日本の絵画修理の技術に裏打ちがあります。糊を塗った和紙を対象の裏面に貼り補強するこの伝統技術は長く文化財を支えてきました。糊は小麦澱粉を煮ながら攪拌（かくはん）して作ります。攪拌の仕方や時間によっても糊の出来具合は変わります。大寒の頃に作る糊を長期間熟成させる「古糊」は掛軸修理には必須の材料です。この糊を使う紙は手漉きの和紙です。時に、本紙の繊維を分析して組成の近い和紙を用意し、あるいは薄くて丈夫な薄美濃紙を使い、裏打ちの技術を駆使します。古来の素材を知り、技術を練磨しながら文化財を伝えるお手伝いがしたいと考えています。

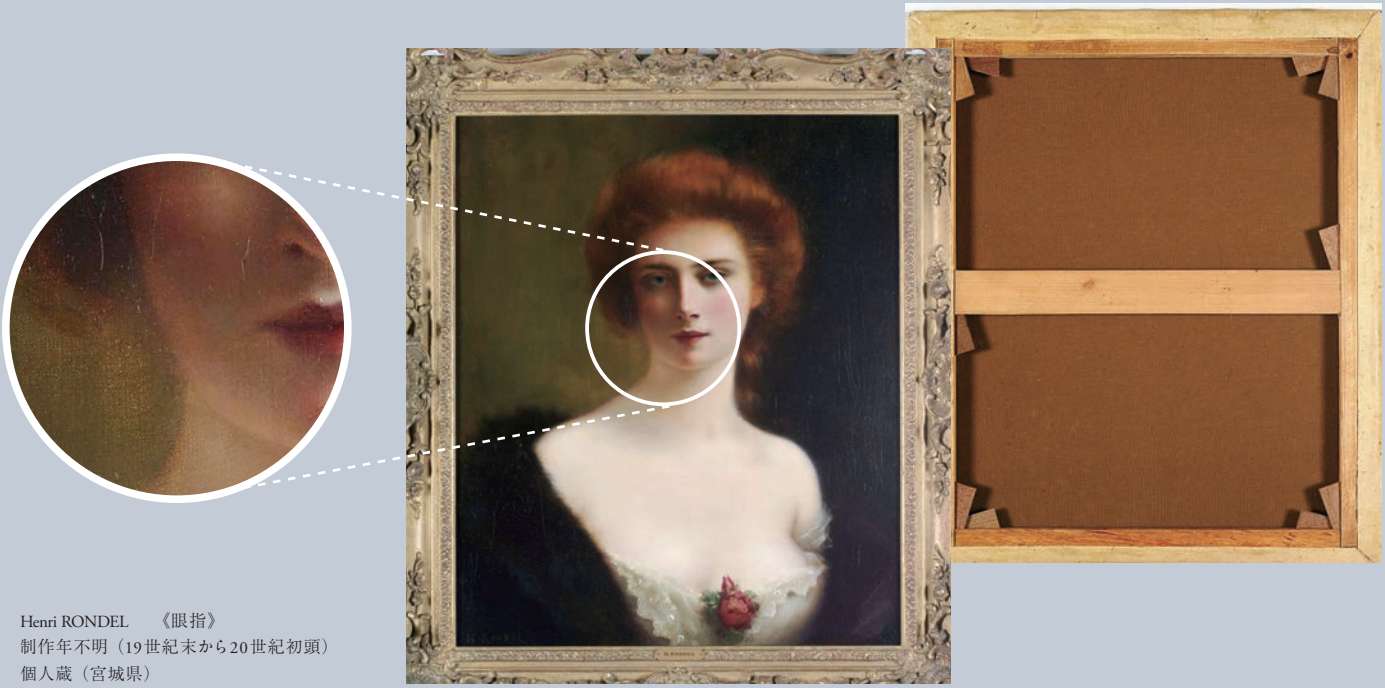




東洋絵画修復部門	美術館や博物館、資料館だけでなく、地域の中には傷んでいる作品も多く見られます。それらの保存継承をする手助けをしたいと考えます。対象は広く、掛軸、屏風襖絵だけでなく、古文書、典籍、古地図といった日本古来の表装形態の殆どを扱っています。 ●担当研究員：杉山恵助（研究員・准教授）／元喜載（研究員・講師）

西洋絵画をより良い状態で未来に引き継ぐ

BEFORE



AFTER

Henri RONDEL　《眼指》
制作年不明（19世紀末から20世紀初頭）
個人蔵（宮城県）

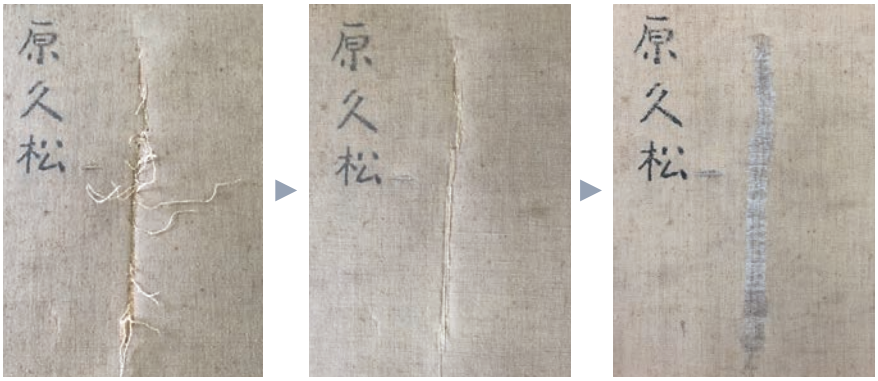
西洋絵画修復部門では主に油絵を取り扱っています。美術館や博物館等の公共の施設から個人の所蔵者まで幅広い層から相談を受け、作品を調査します。損傷している作品は依頼者と綿密に話し合った上で修復を行い、作品をより良い状態で後世へ継承していく方法を研究・実践しています。写真はおよそ100年前に制作されたと考えられるフランス人画家の手による油彩画です。作品の表裏に黴が発生し、さらにワニス層の黄変を含む変容により画像が見え難い状態にありました。黴の除去により保存上の安全性を回復し、複数層からなるワニスの上層部を除去し再塗布を実施することで、作品本来の色彩や図像を認識できるよう美観を回復させました。

素材を知り、作品を知る

油絵は板や布を支持体として油絵具を幾重にも重ね、ワニスで仕上げた層構造で出来ています。この素材の異なる層の重なりが油絵の特徴であり、損傷にも大きな影響を与えます。西洋絵画の修復は素材や構造を理解することから始まります。目視での調査は勿論、紫外線や赤外線を用いた光学調査、保存科学部門と協力し最新の機器を使用した科学分析調査を行います。調査結果を考察した上で修復の方法を慎重に選び、作品がつくられた当初の姿を大切にしながら修復処置へ進みます。作品そのものには目立つような傷みがない場合でも、将来起こりうる劣化を視野に入れ、額の調整や保管環境の改善など予防的保存処置を提案しています。

赤外線写真を撮ることで下層にある下書きが見えることがあります。これも作品の修復・研究に大事な調査です。（左：通常光写真、中央：赤外線写真、右：紫外線写真）

作品の支持体破れを修復



処置前　経糸・緯糸を組み直す　かけはぎ補強後

西洋絵画修復部門	東北地方にゆかりある画家の作品をはじめ、日本近現代洋画の調査・修復を行っています。調査・修復を通した考察を深めることで、作品の来歴や画家の技法の特徴が判明する場合があります。得られた新たな知見は作品修復の一助とするだけでなく、研究発表や公開することで社会に貢献できればと考えています。 ●担当研究員：中右恵理子（研究員・准教授）／長峯朱里（客員研究員）／米田奈美子（客員研究員）

歴史と考古学の研究

左：北海道有珠モシリ遺跡の発掘調査（2019年）／右：製作した土器による調理実験の様子（2019年）

土地の記憶を未来につなぐ遺跡の保存と修理、そして活用

遺跡はその土地が歩んできた歴史を記憶する場所です。歴史・考古部門では自治体と連携して発掘調査等を行い、地下にある遺跡の内容及び価値を明らかにします。また、保存科学部門とともに発掘された遺構の一部切り取りや土層転写、脆弱遺物の取り上げを行い、これを保存して本物の迫力を未来に伝えます。特別史跡「三内丸山遺跡」では、発掘後露出展示されている土器集積遺構の保存処理と維持管理に携わっています。

一方、地上にある文化財の研究にも取り組んでいます。長い暮らしのあゆみが作り上げてきた歴史的風致や町並み景観について調査し、その個性・魅力を地域づくりの資源として生かすことを提案。山形県高畠町では住民らとともに江戸期以来連綿と続く、凝灰岩の手掘り採掘技術を調査・記録し、それら製品が蓄積する個性的な景観と暮らしの知恵を明らかにしました。成果の普及のために毎年石工サミットを開催しています。

1

2

3

1. 史跡・有形文化財等の三次元計測（上山市楢下）
2. 全国石工サミットinたかはた　鍛冶技術のワークショップ
3. 露出展示された遺構の保存処理（青森県三内丸山遺跡、2015年度）

歴史・考古研究部門	主に遺跡や文化的景観に関する調査研究を進めています。遺跡では保存目的（範囲確認、史跡整備）の発掘調査や地形測量を実施しています。また、地域文化財の総合把握として石造物等の有形文化財、伝統的な生業技術にみられる無形文化財や民俗文化財、町並み景観などを研究しています。自治体や住民と連携した活動を通して、文化財行政や地域作りにも貢献します。 ●担当研究員：北野博司（研究員・教授）／青野友哉（研究員・准教授）／添田雄二（客員研究員）

文化遺産の保存・活用の研究

左：三内丸山遺跡大人の墓（露出展示）保存処理業務（青森県青森市）／右：大阪府立狭山池博物館木製枠工及び堤体等保守点検業務（大阪府大阪狭山市）

保存科学からの新たな発見と修復・保存活用のサポート

地域の文化財を掘り起こし、活用することで地域の活性化を図る取り組みは、当センターが重要課題に掲げてきた「地域に寄り添った文化財の保存・活用」の基軸となります。公開を前提とした修復技術の創出、寒冷地での課題など、保存科学部門は多様な文化遺産に対し、自然科学的視点・研究からサポートする分野です。科学的手法を用いた分析は現代の保存修復においても必要不可欠です。当センターでは、X線透過撮影装置や電子顕微鏡などの最新機器を駆使し、様々な材質の文化財を対象とした調査研究を進めています。また、遺跡から出土した木製品・金属製品をはじめ、地域の人々が守り受け継いできた写真や人形などといった地域文化財にいたるまで、保存・活用に関する調査研究を幅広く行っています。

文化財保存・展示環境における昆虫相調査（山形県鶴岡市）

保存科学部門

保存科学部門は各修復研究室が必要とする構造・材質、劣化状態・要因、保存環境等に関する情報を自然科学的に調査分析し、修復部門を支援する役割を担っています。現在の保存修復では、科学的なデータで文化財の状態を診断することが重要視されています。保存科学研究室では、多様な文化財に対応した最新の機器を設置し、様々な科学分析が可能となっています。

●担当研究員：成瀬正和（センター長・教授）／伊藤幸司（研究員・教授）／佐々木淑美（研究員・准教授）

●客員研究員：荒木徳人、石崎武志、岡本篤志、金原美奈子、河崎衣美、小林啓、高見雅三、中村力也、村串まどか、安木由美、大和あすか、脇谷草一郎、和田浩

研究活動の公開

1

2

3

センターでは研究成果について、センター内外での展示、シンポジウム、公開講座、研究会、紀要の作成などによって発信しています。
文化財をとおした地域との連携、文化財を教育に活用することで生まれる文化理解、また観光資源として文化財を活用することで創出される経済効果など、総合的な文化財活用の在り方を模索した研究活動を目指しています。

1.「善寶寺五百羅漢修復プロジェクト」（東北芸術工科大学 卒業・修了展〔東京展〕・「TOHOKU CALLING」／東京都美術館2020年）
2.センター公開講座「表具を愛でる―掛軸鑑賞入門―」・オンライン配信（2021年）
3.センター公開講座「熊本城跡復旧の現在」・オンライン配信（2021年）

災害で被災した文化財を修復し、地域の心を守り伝える

2011年の東日本大震災では津波により多くの文化財が被災しました。当センターでは文化庁や各地の文化財防災ネットワークと連携した被災文化財の修復に取り組んできました。美術館への専門家の派遣、応急処置や本格的な修復まで、これまで実施してきた活動の経験は今後襲い来る災害から文化財を守る活動に活かされるはずです。東北における文化財保存修復の拠点として文化財防災・減災に取り組み、準備を進めていきます。

1.真空凍結乾燥機による水損文書の処置
2.文化財レスキュー活動

1

2

傷んだ作品の相談、保存修復の依頼受け付けております

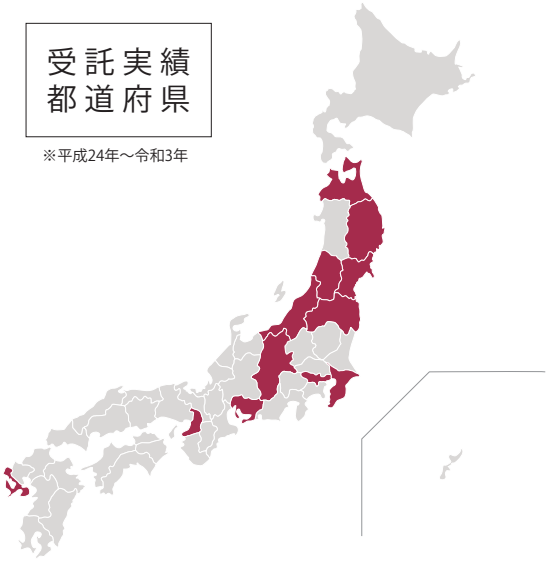
当センターでは保存修復に関する相談を受け付けています。各専門分野の担当者が研究・修復に取り組む体制をとっており、科学的調査を行いながら、地域や環境に根差した文化財の保存継承の手助けとなるよう取り組んでいます。

令和３年受託実績一覧

山形県	
鶴岡市	善寶寺五百羅漢像保存修復業務
山形市	十文字天満神社御神体修復事業
山形市	十文字天満神社宮殿型厨子修復
鶴岡市	出羽三山歴史博物館仏像梱包搬出入業務
大衡村	令和３年度大衡村ふるさと美術館所蔵作品修復業務
山形市	金山氏所蔵額縁絵画修復業務
白鷹町	大日如来堂欄間彫刻・墓股彫刻の保存修復業務
遊佐町	令和３年度遊佐町船絵馬作品調査事業
鶴岡市	未指定文化財（酒井家墓所）石造物実測調査業務委託
山形市	令和３年度山形市指定文化財現況調査業務委託
米沢市	上杉博物館所蔵「大名行列絵巻」本格解体修理【2021 年度】
東根市	東根市所蔵作品保存修復業務委託
山形県	日本画「白鳥」（根上富治氏作）応急修理業務委託
酒田市	市所蔵絵画　斎藤長三作「城山残照」修復業務委託
酒田市	酒田市美術館所蔵作品　斎藤長三《城山残照》充填整形・補彩処置
米沢市	耕圓寺所蔵「十三仏図」応急修理
米沢市	浄円寺所蔵「襖絵」本格解体修理
新庄市	向陽山瑞雲院所蔵「涅槃図」応急修理
鶴岡市	石田博氏所蔵「魚籃観音図」応急修理業務
山形市	個人蔵「過去帳」応急修理業務
米沢市	法音寺所蔵「人天蓋」修理業務
東根市	東根福祉会所蔵「書道作品」応急修理業務
大江町	大江町出土大珠分析調査業務
青森県	
青森市	三内丸山遺跡大人の墓（露出展示）保存処理業務
岩手県	
花巻市	令和３年度花巻市博物館所蔵花巻人形彩色調査研究業務
平泉町	令和３年度特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡保存修理事業　遣水景石の凍結破壊防止のための樹脂材料の調査及び遣水周辺環境に関する調査
宮城県	
仙台市	大林寺礼拝堂襖絵保存修理業務
仙台市	佐藤忠良作《牧神》《人魚》修復業務
新潟県	
新潟市	新潟市北区郷土博物館資料修復業務
千葉県	
大網白里市	要行寺 四菩薩像・三光天子像・大黒天像・厨子入大黒天像・日蓮聖人像一式修復
大阪府	
富田林市	大阪府立狭山池博物館　木製枠工及び堤体等保守点検業務
長崎県	
長崎市	ド・ロ版画の作品調査及び「最後の審判」本格解体修理

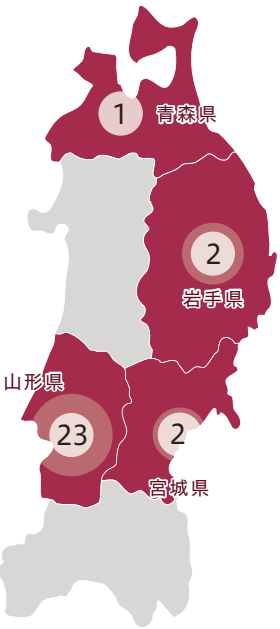
受託実績
都道府県

※平成24年～令和3年



令和３年
受託実績

※東北地方



刊行物

定期刊行物としてセンター紀要（2011～）があります。地域文化遺産の価値の再評価と循環型保存活用システムの構築に取り組んだ研究事業報告書や、所有者の目線に立った文化遺産日常管理マニュアルなどを刊行しています。HP（http://www.iccp.jp）でも一部pdfでダウンロードすることができます。